

SUZUKA 10 HOURSにHubAuto Racingが フェラーリ・ファクトリーラインアップでの参戦決定

鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)は、2018年8月24日(金)~26日(日)の期間に「第47回 サマーエンデュランス『鈴鹿10時間耐久レース (SUZUKA 10H) 』」を開催いたします。このSUZUKA 10Hに、台湾の「HubAuto Racing」が、フェラーリのファクトリー・ドライバーによるラインアップでの参戦が決定しましたので、ご案内いたします。

HubAuto Racingは、ダビデ・リゴン、ミゲル・モリーナ、マット・グリフィンのオール・プロクラス布陣に加え、プロノアマクラスにはモリス・チェン、ニック・フォスター、レオ・イ・ホンリイ組の、合計2台のフェラーリ488 GT3をエントリーします。

マット・グリフィン、世界でも最も経験豊かなフェラーリドライバーとして、11年間、国内外の様々な選手権でGT車両を乗りこなしてきました。また、FIA世界耐久選手権GTEクラスに参戦する、フェラーリファクトリーのドライバー2人がチームに加わります。ダビデ・リゴンは2014年以来、世界の舞台でフェラーリのドライバーとして活躍を続け、2016年にはGTE-Proで年間ランキング2位を獲得。ミゲル・モリーナは2017年にワークス・デビューを果たし、今シーズンはFIA世界耐久選手権GTEクラスにフル参戦しており、またそれぞれBlancpain GT Seriesの参戦を通じて、フェラーリ488 GT3での経験も積んでいます。



写真提供 : Blancpain GT Series Asia

マット・グリフィン選手のコメント :

「幸運にも、これまで僕は様々な名門コースで走る機会を得てきたけれど、鈴鹿サーキットは『生きてるうちにやりたいことリスト』の最後にとっておいたものだった。それをようやく今年果たすことができるんだ。この挑戦をどれだけ楽しみにしていたか、うまく言葉では表せないくらいだ。僕たちの中ではダビデしか実経験がないけれど、マラネロには良いシミュレーターがあるから、ミゲルと僕も困らないと思う。今回のプログラムは全てうまくいっていると思う。今年初めにデイトナでミゲルとはいい仕事ができ、彼とダビデも去年スバ24時間で良いレースをしていた。お互いによく知っているし、HubAutoについてもエンジニアリングが強い、という良い評判を耳にしている。フェラーリも彼らに多大なサポートをしているし、日本には勝つために行くつもりだ」

チーム2台目のエントリーとしては、HubAuto RacingのBlancpain GT Series Asia参戦ドライバーの4名中3名が顔を揃えています。ニック・フォスターとレオ・イ・ホンリイは第4戦終了時点で、GT3ドライバーのランキング3位、チームオーナーでもあるモリス・チェンは、シリーズ中はオーストラリア・スーパーカー・チャンピオンシップの人気ドライバー、ティム・スレードとパートナーを組んでいます。

なお、HubAuto Racingは、6月30日(土)・7月1日(日)に開催されるBlancpain GT Series Asia (SUZUKA RACE of ASIA) の第5・6戦にレギュラー参戦チームとして出場し、同じピレリタイヤがサプライヤーとなるSUZUKA 10Hの2ヶ月前に、鈴鹿サーキットでの貴重な走行時間を積むことができます。